授業改善リーフ「第３集」

P･I･A とは、
Proactive（主体的な）、Interactive（対話的な）、Authentic（本物の）Learning（学び）〔文部科学省パンフレットより 2021.3 発行〕の頭文字をとったもので、「主体的・対話的で深い学び」を英語で表現したもの。

P･I･A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善　実践事例～
小学校　国語科　編　①　概要

校種・学年	小学校・６学年	**教科等**	国語科
単元名 教材名	物語を読んで考えたことを、伝え合おう　「ぼくのブック・ウーマン」		
単元の目標 ※◎＝重点とする内容（特に粘り強さを発揮してほしい内容）	⑴ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。〈知識及び技能〉⑶オ ⑵ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉C⑴エ ⑶ ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。〈思考力、判断力、表現力等〉C⑴オ ⑷ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉		
単元で取り上げる言語活動	物語を読み、自分の生き方などについて考えたことを伝え合う活動。（関連：言語活動例 C⑵イ）		
本時のねらい	人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。〈思考力、判断力、表現力等〉C⑴エ		
本時の評価規準	「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。【思考・判断・表現】		

事例の概要（見どころ）

国語科は、「言語能力」を育成する中心的な役割を担う教科です。そのため、「言語活動を通して、指導事項を指導する単元展開」が授業づくりにおいて非常に重要になります。

本事例は、４時間扱いという「C 読むこと」領域の中では、比較的短い時間数の単元において、４つの資質・能力（上記の目標４つ・重点は⑶）を児童一人一人に確実に身に付けさせるために、「①どのような言語活動を設定すればよいか　②設定した言語活動を単元全体に位置付け、課題解決をするための学習過程となる４時間の指導計画はどのように工夫するとよいか」という視点で丁寧に単元を構想し、展開した事例です。

具体的には、言語活動例 C⑵イ「物語を読み、自分の生き方などについて考えたことを伝え合う活動」を４時間の指導計画全体に位置付け、児童たち自身が「単元の最後には、みんなで『ぼくのブック・ウーマン』を読んで、考えたことを伝え合うのだ。」という見通しのもと、教材（10 ページ）を読み、自分の考えを形成していきます。

また、ＩＣＴ端末を「教材を読み、物語の全体像をとらえる場面」・「自分の考えをまとめ、伝え合う場面」等で効果的に活用しています。

※本資料の「小学校 国語科 編 ② 指導展開」では、１単位時間の展開部分だけでなく指導計画等の具体的な内容と立案の際のポイントも示してあります。

発行：令和７年３月
埼玉県教育局南部教育事務所
https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html

その他のＰ・Ｉ・Ａシートはこちら　↑

授業改善リーフ「第３集」

P・I・A シート

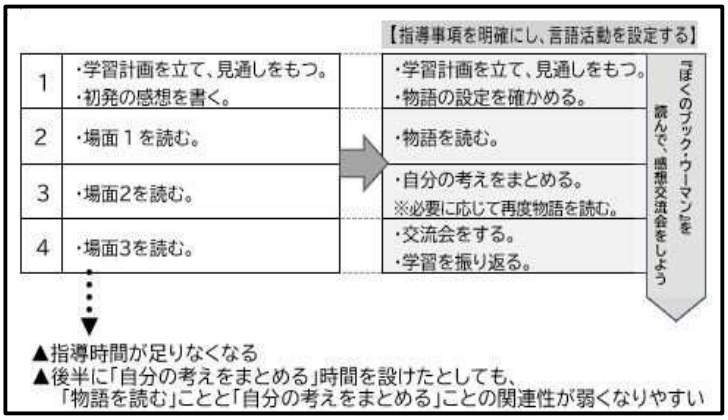
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善　実践事例～
小学校　国語科　編　②　指導展開

1　本事例における「指導の計画」と「評価の計画」（全4時間）のポイント

指導の計画のポイント

本単元は、４時間扱いであり、扱う教材は10ページに及ぶ比較的長い物語文です。指導事項の重点等を明確にしないまま指導計画を構想すると、「指導時間数が足りない」等の発想につながることが考えられます。

本事例では、本単元の**重点指導事項をC(1)オの「考えの形成」**と授業者が明確にして言語活動を設定し、併せて、10ページの教材文の読み方について指導事項C(1)エの「精査・解釈」に基づいて工夫しています。



（本単元に関わる第５学年及び第６学年のC(1)エ「精査・解釈」は、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したりすること」です。10ページ程度の教材文を限られた時間数でも読めるようにするためには、低学年からの指導事項の系統性を意識し、螺旋的・反復的に繰り返しながら指導することが重要です。第３学年及び第４学年のC(1)エ「精査・解釈」は、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」です。この指導の積み重ねを受けて、第５学年及び第６学年の指導事項が示されています。）

そして、その際、ＩＣＴ端末を効果的に活用することで、一時間毎の学習の質と効率化を高めることにもつながり、４時間扱いで収まる指導計画となっています。

また、単元計画全体に「『ぼくのブック・ウーマン』を読んで、読書生活交流会をしよう」という言語活動を設定したことによって、単元計画が、「課題解決をしていくための学習過程」となり、児童の「粘り強い取組を行う姿」や「自らの学習を調整する姿」が一層見られるようになっています。この効果は、「主体的に学習に取り組む態度」の適切な評価にもつながります。

評価の計画のポイント

具体的な指導計画を構想したあとは、単元のどの段階で、どの評価規準に基づいて評価するのか、評価場面を精選して決定することが重要です。（実現状況を把握できる段階で行うため、評価を行わない時間もあります。その際は、児童の学習状況を把握し、指導改善につなげることを大切にする時間とします。）
本事例では下記の４つの評価規準を４時間のどの段階で評価するのか、大変よく精選されています。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（(3)オ）	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。（C(1)エ） ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）	① 進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

「指導と評価の一体化」については、引き続き充実・改善が必要であり、**授業を構想する際、「指導の計画」だけに留まらず、「評価の計画」まで考えることが重要です。**そして、授業を行う際は、設定した評価規準を授業内の適切な場面で確実に見取り、評価結果を「教師の指導改善」・「児童生徒の学習改善」に生かしていくサイクルを確立していきましょう。

【本事例の「指導と評価の計画」の実際】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（(3)オ）	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。（C(1)エ） ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）	① 進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

この４つの評価規準を４時間の中の「どの時間で、何回評価をするか」

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○学習計画を立て、見通しをもつ。 ○物語の設定を確かめる。	○物語の設定の捉え方	【思・判・表①】 発表・ノート ・作品設定の理解
2 本時	○物語全体を通して、中心人物の見方・考え方がどのように変化したのかを話し合う。	○人物の変化の捉え方 ○物語の全体像の捉え方	【思・判・表①】 発表・ノート ・人物の見方・考え方の変化、作品の全体像についての理解
3	○物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験などと結び付けながら、まとめる。 ※必要に応じて、再度物語を読む。	○考えのまとめ方	【知・技①】 【思・判・表②】 発表・ノート ・作品と自分とを関連させた記述の内容
4	○まとめたものをグループで読み合い、考えの共通点や相違点を語り合う。 ○学習を振り返る。	○交流の仕方	【主①】 発表・ノート ・交流・振り返りの内容

令和6年度 全国学力・学習状況調査との関連

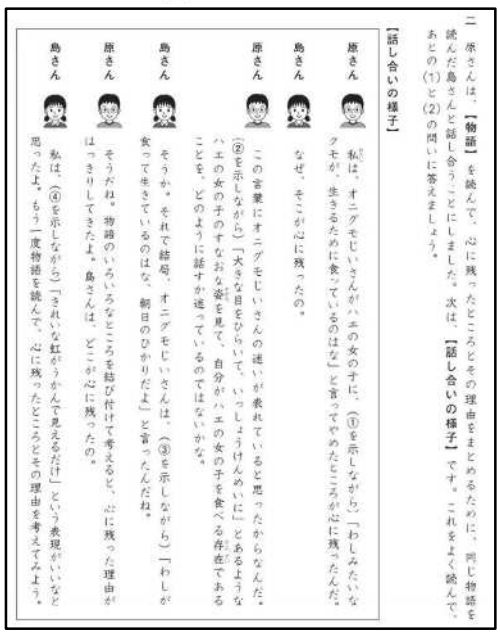
全国学調の問題は、学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視して出題されています。授業改善のメッセージが大問をとおして発信されています。

今年度の調査問題では、本単元で扱う指導事項の定着を問う問題（大問3）が出題されています。

＜出題の趣旨＞
登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉え、人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることや、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる。

＜各設問の趣旨＞ ※赤文字＝本事例に関わる内容

3一　文中における主語と述語の関係を捉えること
3二(1)　登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること
3二(2)　人物像を具体的に想像すること
3三　人物や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること
3四　日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと ※この設問は、今年度の調査で初めて取り上げる内容です。



二　原さんは、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめるために、同じ物語を読んだ島さんと話し合うことにしました。次は、【話し合いの様子】です。これをよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

原さん　私は、オニグモじいさんがハエの女の子に、①を示しながら「わしみたいなクモが、生きるために食っているのは」と言ってやめたところが心に残ったんだ。

島さん　なぜ、そこが心に残ったの。

原さん　この言葉にオニグモじいさんの迷いが表れていると思ったからなんだ。②を示しながら「大きな目をひらいて、いっしょうけんめいに」とあるようなハエの女の子のすなおな姿を見て、自分がハエの女の子を食べる存在であることを、どのように話すか迷っているのではないかな。

島さん　そうか。それで結局、オニグモじいさんは、③を示しながら「わしが食って生きているのはな、朝日のひかりだよ」と言ったんだね。

原さん　そうだね。物語のいろいろなところを結び付けて考えると、心に残った理由がはっきりしてきたよ。島さんは、どこが心に残ったの。

島さん　私は、④を示しながら「きれいな虹がうかんで見えるだけ」という表現がいいなと思ったよ。もう一度物語を読んで、心に残ったところとその理由を考えてみよう。

また、報告書には、「本問全体の学習指導に当たって　授業アイディア例」も掲載されています。授業改善にあたって、非常に参考になる内容ですのでぜひ、参考にしてください。

【参考】国立教育政策研究所ホームページ　令和6年度　全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた指導の改善・充実に向けた説明会　説明資料　：国立教育政策研究所　National Institute for Educational Policy Research

【授業づくりの基本①】
本時の目標は、「単元の目標」を基にして設定します。
※「単元の目標」は、指導事項等を基に設定します。

2　本時の学習指導（2／4時間）

○目　　標：人物や物語などの全体像を具体的に想像することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ

整合

○評価規準：「読むこと」において、人物や物語などの全体像を具体的に想像している。

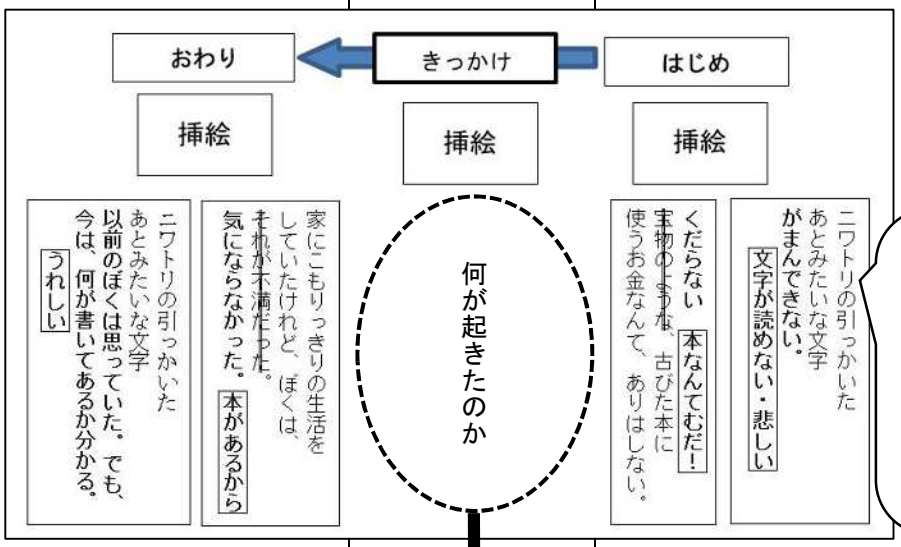
【思考・判断・表現】

【授業づくりの基本②】評価規準は、本時の目標との整合性を図ります。

○展開

【授業づくりの基本③】埼玉県では、以下の３つの項目で本時の指導案を示しています。
※詳細は、「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料」（令和２年３月）Ｐ28 を参照

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1　前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。	○物語の内容の捉え方	○前時の学習を振り返りにおいては、全体で物語の内容を確認する。その際、中心人物の心情について書いたセンテンスカードを提示し、「はじめ」と「終わり」でどのように変わったかを考えられるようにする。 ○センテンスカードでは、着目させたい言葉を他の言葉に置き換えて提示し、その違いを指摘させることで、人物の見方・考え方を捉えられるようにする。	10



＜期待される児童の反応＞
・「ニワトリの引っかいたあとみたいな文字」は２回出てくるけど、そう思っていたのは、「はじめ」だけです。
・「不満」じゃなくて、「気にならなかった」です。本が読めるから退屈ではなかったんだと思います。

授業改善の視点①：言葉による見方・考え方を働かせる教師の働きかけ

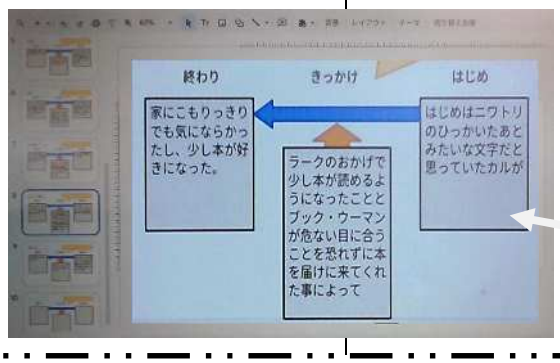
国語科における「深い学び」の実現には、「言葉による見方・考え方」を働かせることが非常に重要となります。対象と言葉、使われている言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目するよう、本時の目標も踏まえて、意図的に教師が児童に働きかけましょう。

本時では、教師があえて間違えている本文の一文（センテンスカード）を提示し、児童に正しい内容に直す学習活動を設定しています。児童は、捉えた言葉の意味を文脈に即して捉え直すことができ、自ら理解した言葉や物語の内容により自覚的になっています。

○児童との対話から、前時の振り返りを本時の学習課題へつなげる。また、その際、本時の学習が、次時への学習につながることも意識させる。（単元全体の目標の意識化）

「カル」の本への考えは、どのようなことをきっかけにして変化していくのだろうか。

2　「カル」の本への考え方の変化（きっかけ）について読み、話し合う。 ・個人→他者参照（ペア）→全体	○人物の考え方の変化の読み方	○ＩＣＴ端末内のコラボレーションホワイトボードソフトを活用し、図解してまとめるようにする。場面と結び付けながら中心人物の変化を捉えられるようにする。	20



【深い思考と粘り強い取組の様子】
・教科書を何度もめくりながら…
・読み取ったことを打っては消して…

＜期待される児童の反応＞
・女の人が何度も本を届けに来て、その人に興味をもったからだと思います。
・妹に教わって自分でも字が読めるようになって、本を読むのが楽しくなったからだと思います。
・お父さんやお母さんもきっかけになるかもしれません。

📢授業改善の視点②：学習の質を高めるＩＣＴ端末の効果的な活用📢

本時では、ＩＣＴ端末内のコラボレーションホワイトボードソフトを活用し、学習の質を高めました。ICT 端末を効果的に活用することによって、以下の児童・教師の姿が見られました。

①試行錯誤や書き直し等が容易にできることにより、児童が深く思考したり、粘り強く課題に取り組んだりしている姿
②他者参照によって互いの考えを瞬時に共有できることにより、児童が自己の考えを広げたり深めたりする姿
③教師が全児童の考えを自身の端末上で把握できることにより、授業展開の修正や学習状況の確実な見取り（評価）を行っている姿

【他者参照によって自分の考えを再構築している様子】

【児童の学習状況から、十分ではない理解について教師が問い返しをしている様子】

○中心人物の本への考え方が変わったきっかけを中心に、全体で話し合う。

以下の２点も📢授業改善の視点①の具体📢

○カルが変わったきっかけとして、ブック・ウーマン以外の人物に着目した児童も積極的に取り上げ、物語全体の理解を深める。
○「なぜ、女の人は、大変な思いをしてまで本を届けに来るのだろう？」と投げかけたり、「カルと同じように、女の人や家族は変化しているだろうか？」と問いかけたりして、様々な登場人物の人物像にも着目させる。

3　本時のまとめをする。	○作品の全体像の捉え方	○中心人物の変化を自分の言葉でまとめさせる。（ＩＣＴ端末内のコラボレーションホワイトボードソフトに入力）	7

＜期待される児童の反応（まとめの例）＞
・はじめ、本は価値がないと考えていたカルが、ブック・ウーマンや親の思いを受け止め、妹に教えてもらうことによって、本を読むことの喜びを感じられるようになった。

【思・判・表①】
＜評価方法＞
発表・ノートの考察
・「はじめ・きっかけ・終わり」の展開に沿って、中心人物の気持ちの変化が書けている児童を、Ｂ評価とする。
＜「努力を要する」状況（Ｃ）への手立て＞
・板書の言葉を使って、まとめるように助言する。

4　学習の振り返りをする。	○振り返りの視点		8

＜期待される児童の反応（振り返りの例）＞
・今までの学習で気をつけてきた、登場人物に関する叙述に着目して、登場人物の変化や関係に注意して読むと、カルの変化がよく分かりました。

📢授業改善の視点③：評価📢

評価方法や見取る児童の具体的な姿を教師が明確にし、評価場面で評価を確実に行います。その際、見取るために必要な時間の確保も重要です。

また、評価を１単位時間内で完結するのではなく、単元全体として蓄積し、指導・学習改善のサイクルの中で児童一人一人の学力を伸ばすことに評価を生かすことが重要です。